

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL
19

2010

◎特集

質の高いがん治療を目指して

患者から学び、患者に還元する病院

愛媛大学医学部附属病院

横断的な取り組みで、志を同じくするグループを結成 新しいがん集学的治療を目指したい

腫瘍センター長 薬師神芳洋 医師



多様な分野の専門家が集まり治療方法を検討するキャンサーボード

愛媛県では、当院をはじめとする7つのがん診療連携拠点病院が中心となり、5大がんのパスを構築する「クリティカルパス」のプロジェクトが始まっています。そのため医療従事者、愛媛県保健福祉部、がん患者の会などによるがん治療のネットワークが発達。全国的にもトップレベルを誇っています。

その中の当院の役割は、①がん拠点病院として、県内のがん治療を牽引すること、②県内唯一の大学病院として、医師や看護師を育成すること、③一般的な治療はもちろん斬新な治療も行える基幹病院として、地域医療機関では対応困難な患者さんの最後の砦となること、という3つ。その一翼を担っている「腫瘍センター」の

役割としては、①医療従事者、患者さん、社会に対するがんの治療・ケアに関する啓蒙活動、②臓器別ではなく、疾患横断的ながん治療の推進、③がん治療専門医の育成、④がん登録（データ収集）、⑤緩和ケアの浸透、という5つが挙げられます。現在は、縦割りではなく、横の繋がりを主体とした治療システムへの移行期であり、関係者の意識改革が早急に求められています。そこで診療科の垣根を越えて患者さんの治療方法を検討する「キャンサーボード」を設置しました。このような取り組みは県内でも進められており、がん診療連携拠点病院会議では「がんの集約的治療に関する分科会」を設置。実際に生じた治療上の問題点を抽出し、県内の拠点病院



PROFILE

やくしじんよしひろ○愛媛大学医学部・附属病院講師。医学博士。悪性リンパ腫・がん化学療法を専門に活躍する。1993年愛媛大学大学院医学研究科修了。日本血液学会、日本臨床腫瘍学会などの専門医・指導医も務める。大学時代は野球部に所属。俊足の3番、センターを守っていた。

で解決を図ろうとしています。

最近は治療法の発達により、今の状況を維持しながら日常生活を送ることが可能となり、急性期治療から慢性期治療に移行するがん患者さんの割合が増加しています。慢性期治療を担当しているのが当センター内の「外来化学療法室」です。ここでは薬剤部や医療福祉支援センターの協力を得て、点滴時間を利用した服薬指導や医療費相談などを実施し、患者さんのケアの充実も図っています。

私の信条は「Don't fight cancer in the dark (=暗闇の中でがんと闘うな)」。志を同じくする仲間とのチーム医療で暗闇に光を当て、患者さんと一緒に明るいところで闘っていきたいと考えています。



画像誘導放射線治療が可能な最新の放射線治療装置



緩和ケア認定看護師も参加しての診療



ふれあいサロンの開催

最先端装置と確かな技術により、安全で高精度な放射線治療を実現

放射線部副部長（准教授） 藤井 崇 医師

日本のがん治療は、これまで手術が中心でした。しかし現在は、がんの種類によっては放射線治療も手術と同様の効果を発揮できるようになり、手術よりも体への負担が少ないこともあります。その推進が「がん対策推進基本計画」の重点課題の最初に挙げられるほど重要視されています。当院では、CT撮影しながら体の動きに合わせてがんにピンポイント照射する「画像誘導放射線治療」が可能な最先端の放射線治療装置を、

平成20年4月に導入。患者さんに最高の医療を提供するため、安全が検証・確保された治療を実践しています。治療に当たるのは専門医2名と技師6名。技師のうち3名は放射線治療専門技師で、うち2名は品質管理士の資格もあります。今後は、平成21年度に開設した「がんプロフェッショナル養成コース」などで専門医を育成し、人材不足が深刻な県内の放射線治療体制の整備に貢献できればと考えています。



患者さんとご家族の苦痛を取り除き、充実した生活へ

緩和ケアセンター（麻酔科蘇生科助教） 坪田信三 医師

当院では平成19年11月に、がん診療連携拠点病院の指定要件を満たす「緩和ケアセンター」を設立しました。緩和ケアとは、病気による体の痛みや精神的不安など、患者さんが生活する上で障害となっているあらゆる苦痛を取り除くこと。当センターには神経ブロックという特殊な技術を持つ長櫛教授をはじめ、専従の医師や看護師があり、患者さんはもちろん、サポートするご家族の方も対象としています。

ケアではまず「医師に対しては絶対に話せないこともある」を前提に診療を行い、痛みや痛みの増幅要因をしっかり診断。その結果、安易に「痛みの緩和＝鎮痛剤（モルヒネ）処方」に委ねることなく、一人ひとりに応じた確かな治療が可能となります。

緩和ケアによって苦痛を取り、患者さんが望む質の高い生活へと導く。そして誰もが笑って過ごせる社会が実現すれば、素晴らしいですね。

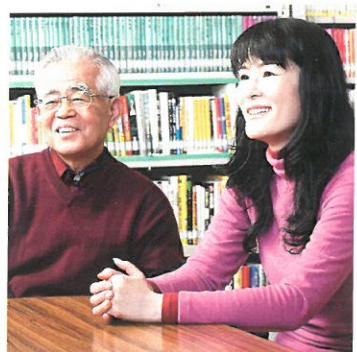


がん患者さんやご家族が“ほっと”できる癒しの場を

あいほっと支援スタッフ 野村和男
あいほっと支援スタッフ 松本陽子

がん患者さんと家族の方が自由に参加できるサロン「あいほっと」が、平成21年4月に開設されました。これは県内の7つの拠点病院の中では初のものです。附属病院は総合病院であるため、すべての患者さんががんと闘っているわけではありません。孤独の中で病気に向き合っている人も少なくないでしょう。そこでがん患者さんや家族の方が立場を共有し、心を開放できる癒しの場を提供する目的で、体験者とともに

に語り合う「ふれあいサロン」（毎月第2金曜13時～15時）を開催しています。また医療者と患者・家族、さらに学生が立場を超えて自由に語り合い、がん医療やケアの在り方について意見交換する「学びあいサロン」（毎月第3水曜18時～20時）も行っています。参加は無料で院内外を問いません。これからも患者さんとご家族の心の拠り所となるよう、開設時の目的を見失わず活動していきたいと思います。



愛媛大学医学部附属病院 センター・施設トピックス

お気軽にご相談ください

新型インフルエンザ対策はワクチン接種、手洗い、咳エチケット



昨年より感染制御部では、新型インフルエンザの発生段階に応じた診療体制、感染対策の整備を行ってきました。職員を対象とした講演会を開催し、情報提供に努めるとともに院内で発生した

インフルエンザに関する情報収集を行い、感染対策に関する相談や介入を行っています。また、ワクチンを職員および優先接種対象の患者さんに接種しています。本院では職員のインフルエンザの罹患は奇跡的に少なく、また入院中の患者さんから患者さんへの二次感染の発生もなく、皆さんの感染に対する意識の

高さに感謝しています。新型インフルエンザは終息に向かう傾向にありますが、季節性インフルエンザはこれからが本番です。途中で飽きることなく感染対策の地道な継続をお願いいたします。

医療サービス室(医療安全推進チーム) TEL: 089-960-5874

クリスマスコンサートの開催



平成21年12月24日(木) 16時から、外来ホールでクリスマスコンサートを実施しました。今回は医師5人がバンドを結成し、看護師の有志で結成されたコーラス隊とともにクリスマスソングを披露しました。普段の白衣姿からサンタクロースの衣装に着替えてギターやベース、サックスなどを奏でる姿に患者さんも驚いた様子でした。日々の忙しい業務の中で、この日のために練習した曲で、客席は大いに盛り上がり、楽しいコンサートとなりました。

医療サービス室(医療福祉推進チーム)
TEL: 089-960-5099

「あいほっと」ウインターフォトコンサートの開催



平成21年12月8日(火) 18時30分から、附属病院レストラン愛彩館で、がん患者サロン「あいほっと」主催のウインターフォトコンサートを実施しました。横浜・東京を中心にライブやコンサート活動をされている歌手の荒川和子さんをお招きしてのコンサートで、患者さんやそのご家族、医療関係者など約300人が参加し、会場は立ち見が出るほどの盛況ぶり。客席の皆さんには心に響く暖かい歌声を聴きながら、ゆったりとした時間を過ごしていました。

あいほっと
FAX: 089-960-5965 (FAX専用)

禁煙啓発活動

本院では平成18年6月より敷地内全面禁煙を実施し、患者さんや教職員、学生へ禁煙を呼びかけています。平成21年12月1日(火)、教職員・学生を対象に、禁煙講演会を開催しました。家庭内に喫煙者がいる場合、家族の受動喫煙による肺ガン罹患率が非喫煙家庭に比べ15倍にも達することから「愛する人には禁煙を!」をスローガンに掲げ、また、吸いたい気持ちをコントロールする方法として、水やお茶を飲む、あるいは軽い運動等が有効であると訴えました。この他、禁煙啓発活動として、11月から1ヶ月間、病院外来棟において禁煙ソング「おねがい…タバコをやめて」を館内放送で流したほか、愛媛県医師会発行の喫煙習慣予防小冊子「タバコってな～に?」を教職員・学生全員に配布し、禁煙を呼びかけました。

◎問い合わせ先: 医療サービス室
(禁煙推進WG委員会担当)

編集後記

新春というのに寒い日が続きますね。皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、超高齢化を迎えた日本ではこれまでの喫煙人口の高さも反映して、がん患者が激増しています。愛媛大学附属病院では最新の研究成果に基づいた先端治療を行うとともに、様々な専門分野の協力による集学的診療という大学病院の特色を生かしたがん診療に取り組み、成果を上げています。全てのがんが克服される日を目指して、今のがん診療の質を高めながら、私たちは頑張って参ります。

◎愛媛大学医学部附属病院広報委員会
委員長 檜垣實男

○表紙の人
肝胆脾・移植外科学分野 准教授、手術部長
本田和男先生
—手術室にて—



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 Tel.089-964-5111 (代)
ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>